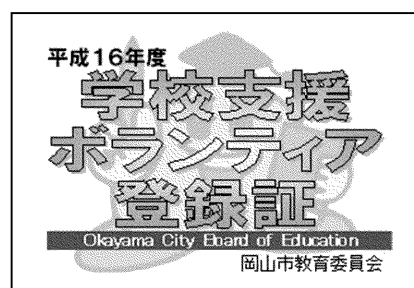


支援センター名	岡山市子どもチャレンジサポートセンター (ももコンセンター)	
所在地	〒700-8544 岡山県岡山市大供一丁目1番1号 (岡山市教育委員会生涯学習課内)	
連絡先	Tel 086-803-1606	Fax 086-234-4141
	URL http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/shougaigakushuu/school_support_volunteer/S_S_V_top.htm	

事業の概要とポイント

岡山市では、岡山市立の学校園での教育活動に地域の教育力を活かすため、平成14年度から学校支援ボランティア制度をスタートさせ、予め登録した地域住民や保護者などに、教育活動の支援、教師の補助、環境整備の支援、学校安全の支援など幅広い分野で、学校教育を支援していただいている。

平成15年度末から平成16年度にかけて、登録ボランティアと学校園との相互理解と連携を深め、両者がそれぞれに期待する活動内容などについて調整するとともに、情報交換と登録ボランティア相互の親睦を図るため、「中学校区別ボランティア交流会」を市内32中学校区全て(学区の無い中高一貫校は除く)で開催した。会場は、幼稚園・小学校・中学校による地域連携の中核となることが期待されている中学校とし、同中学校区に居住する登録ボランティアが一堂に会して、交流を深めた。



『学校支援ボランティア登録証』

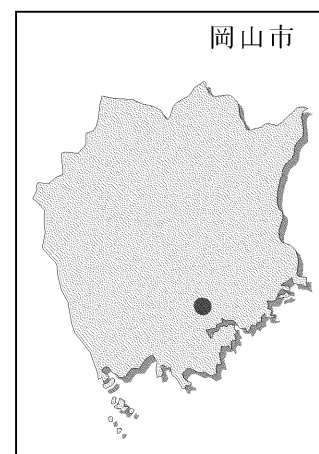
関係した学校・団体等の名称

市内幼稚園 67園・小学校 81校・中学校 33校全 181校園

地域の現況・特色

本市は、吉備文化ゆかりの地として古い歴史と伝統があり、温暖な気候や豊かな自然に恵まれた、人口66万7千人の中核市で、「国際・福祉都市」を目指している。

また、中四国の交通の結節点として成長を遂げ、中核市に移行した平成8年4月以降も、西日本の拠点都市として発展を続けて



いる。

こうした中、平成13年11月、岡山市教育委員会は「岡山『人づくり』プラン」を策定し「子どもたちが愛されていると実感できる家庭・学校・地域社会」の実現を目指して、市民との連携と協働による様々な取組を進めている。

生涯学習課では、地域の教育力を学校の教育活動に活かすとともに、市民の生涯学習活動の成果を発表する場を提供するため、「開かれた学校づくり」を進めており、①学校週5日制の下での子ども対象事業、②「学校支援ボランティア制度」の運用、③学校施設の地域への開放などを行っている。

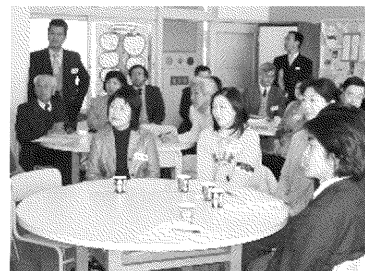
企画から活動までの経緯

- 平成15年 5月 登録ボランティアから、他学区のボランティアと情報交換を行いたいとの相談を受けた。
- 平成15年 9月 ボランティア研修会を実施、登録ボランティアの方に活動体験の発表をしていただき、ボランティア相互の情報交換を行った。
- 平成15年12月 ボランティア交流会の試行開催に向け、会場校への事業概要の説明と日程調整を行った。ボランティアの活用が進み、交流が活発な2つの中学校区での開催を決定した。
- 平成16年 1月 初めてのボランティア交流会を岡山市立高島中学校で開催した。学区内在住の登録ボランティア、ボランティア活動に関心のある学区民、学区内の幼稚園・小学校・中学校の教諭が参加し、意見交換を行った。
- また、日頃、ボランティア先生（登録ボランティア）にお世話になっている児童数人に印象や感謝の言葉を発表してもらい、和やかな雰囲気となった。
- 平成16年 3月 岡山市立興除中学校で、同様に開催した。
- 平成16年 4月 市内全中学校区での開催を目指し、ボランティア交流会の開催趣旨や事業内容について、生涯学習課職員が各中学校区を訪問し、説明と開催の依頼を行った。
- 平成16年 6月～ 各中学校区で、順次開催し、平成17年2月28日に、全中学校区での開催を達成した。
- 平成17年 2月

事例の展開内容（特色など）

登録ボランティアは、園児・児童・生徒から「ボランティア先生」として慕われ、学校園での活動が生きがいとなり、それぞれの活動が広範かつ継続的に発展しているケースが増えている、一方、本制度登録後、学校園からの活動依頼が全く無い登録ボランティアもあり、学校園や登録者相互の情報交換を図り、交流を深めることを希望している。

また、学校園からは、「ボランティア活動を直接依頼する



『交流会の様子』

場合、登録ボランティアの人となり分ならず、不安である」との声もある。そこで、幼稚園・小学校・中学校による地域連携の核となることが期待されている中学校を会場とし、同中学校区内に居住する登録ボランティアと、学校関係者が一堂に会する情報交換と交流の場として「中学校区別学校支援ボランティア交流会」の開催を企画した。交流会の次第は、①教育委員会からの学校支援ボランティアの現状説明、②学校支援ボランティアの活動紹介ビデオの視聴、③参加者全員でのフリートークとし、教育委員会が前面に出ず、学校園の先生方の進行の下、和やかな雰囲気で行うことができた。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

「開かれた学校」という言葉が定着しつつあるとは言え、登録ボランティアは、自ら学校園に出向くということには少なからず抵抗を感じるようである。そこで、教育課程の専門性等を理由にボランティアの活用が少ない中学校を会場とし、学校園を身近に感じていただくよう工夫した。また、学校園に対しては、校園長や教頭、ボランティア担当教諭のみならず、学級担任など、実際にボランティアを活用する立場の先生の出席をお願いした。出席した児童・生徒が、ボランティア先生とともに学んだ感想や体験談を発表することで、参加した登録ボランティアが、活動に参加した喜びを感じることができるよう、配慮した。

評価

学校園は、登録ボランティアと直接懇談することで、その人となりや活動希望分野を知ることができ、期待する活動内容を直接、登録ボランティアに伝えることができた。一方、登録ボランティアは、自らの活動希望分野を学校園に伝えるとともに、登録手続きや活動環境などについて、日頃の思いを伝えたり、提案をしたりすることができた。

アンケート結果では、参加者の98%が「参加して大変よかった」「参加してよかった」、また、全ての参加者が「今後も交流会を続けたらよい」と回答しており、「ボランティアの方や先生方の話が聞けて参考になった」「交流を通じて自分ももっとできるのではと思った」「熱意を感じることもできた」などの感想が寄せられた。

このようにボランティア交流会の実施は、登録ボランティア相互の情報交換や、学校園を核とする地域連携の推進を図る一つの契機となり、地域と学校との連携強化・協働促進に一定の効果があったと考える。

今後は、学校園による地域特性に応じた自主的な「ボランティア交流会」の開催や、登録ボランティアと学校園をつなぐコーディネーターの配置やその育成が課題となっている。

執筆者職・氏名：主事 山口清文